

研究・調査報告書

報告書番号	担当
130	独立行政法人酒類総合研究所
題名（原題／訳）	
Alcohol in alcoholic liver disease is a causative factor for development of allergic skin manifestations. アルコール性肝疾患においてアルコールはアレルギー性皮膚炎症状悪化の一因となる	
執筆者	
Mujagic H, Prnjavorac B, Mujagic Z, Festa G.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Med Arh. 2003;57(5-6):273-8.	
キーワード	
アレルギー性皮膚炎、アルコール、アルコール性肝疾患	
要 旨	
<p>アルコール肝疾患既往歴のある患者にアレルギー性皮膚炎の症状がしばしば観察される。アルコール性肝疾患と蕁麻疹との間に関連があるかどうかを調べるために、アルコール性肝疾患の様々な段階において免疫学的な指標を調べた。解析は50人の患者を用いて行なった。多くの実験的、臨床的指標の中から、多変量判別分析より、この解析の目的に重要であると考えられる7つの指標を見いだした。この7つの指標とは血清タンパク量、血清グロブリン量、γグロブリン量、アルブミン/グロブリン比、IgA、IgE、IgGである。そして、年齢、アルコール性肝疾患の進行状況、臨床状態と皮膚症状の出現頻度とこれらの指標との比較を行なった。</p> <p>この結果、アルコール性肝疾患ではIgA、IgG、アルブミン/グロブリン比に直接的な影響を及ぼさないが、IgEレベルが増加していることがわかった。また、肝疾患の病状の程度はアルブミン/グロブリン比とIgAに負の影響、IgGに正の影響を及ぼしていたが、IgEレベルに肝疾患の程度は関連していなかった。疾患のうちアルコール性肝疾患は皮膚の反応性を予測するための最も重要な指標であった。解析を行なったすべての免疫学的指標のうちでIgE、それに続きアルブミン/グロブリン比がアレルギー性皮膚炎の最も有用な指標であることがわかった。アルコール性肝疾患の病状の程度がアレルギー性皮膚炎の症状に影響を及ぼしているのではなく、肝疾患におけるアルコールそのものの性質がアレルギー性の皮膚症状を引き起こす重要な要因となるが、アルコール依存症自体はこのような皮膚アレルギーの罹患率を上昇させる独立した要因である。</p> <p>以上より、アルコール性肝疾患はアレルギー性の皮膚症状の悪化に重要な役割を果たしており、この効果はアルコールを通じた直接的な効果と、IgEの上昇を通じた間接的な効果とによるものであることが明らかとなった。肝疾患でなく、肝疾患におけるアルコール摂取が免疫学的な異常をもたらし、肝疾患の程度に関係なく、アレルギー性の皮膚反応を明らかに増加させることの原因となっている。</p>	